

高校生の人間形成と地域活動

福留 強 (国立社会教育研修所)

高校生に対する社会教育関係の施策、事業が全国的に増加しつつある。ここでは、高校生の地域活動の現状と問題点について概括的に報告することにした。

1. 高校生の地域活動の現状と問題点

昭和49年4月26日、社会教育審議会の「在学青少年の社会教育の在り方について」が建議された。以来、各県でも、これまで社会教育の対象からはずされがたであった在学青少年に対する認識をあらためるとともに、独自に具体的な施策に取り組むようになってきた。

その一つに社会教育委員会等において、県独自に在学青少年の社会教育の推進方策について答申や建議がふえたことがあげられる。たとえば「在学青少年に対する社会教育のあり方」(答申) 昭和50年10月 広島県

「本県における在学青少年に対する社会教育の具体的推進方策について」(答申)

昭和51年3月、高知県

「在学青少年の社会教育活動振興のための方策について——特に高校在学青年を中心として——」(建議) 青森県 など17の道府県で答申、建議、意見具申、報告がされている。

そして、これらの指標に対応して、在学青少年の社会教育を推進する姿勢がみられる。

たとえば、高校生を対象とする事業には次のようなものがある。以下、代表的な例をあげると

- ・少年団体のリーダーとして養成する事業
- ・子ども会等少年団体指導者研修 岩手県ほか
- ・ジュニア・リーダー研修会 宮城県ほか
- ・社会参加を促進するための事業
- ・高校生ボランティア養成講座 山形県ほか
- ・高校生社会参加セミナー 埼玉県ほか

・高校生社会参加活動促進事業 静岡県

○その他

・高校生の船(国内研修) 茨城県

・国際理解のための高校生のつどい 栃木県

・ふるさと講演会開催 鹿児島県

・高校生社会教育講座 山梨県 など

23の道府県で32の事業が行われている。

また、対象をとくに限定はしていないが、高校生の参加が見込まれる事業は、40都道府県で96の事業が行われている。

市町村においては、青少年地域活動(ふじ運動)はじめ、高校生クラブづくりやジュニアリーダー養成事業などがみられる。

一方、地域における高校生の団体活動の状況についてみると全体の10%前後の生徒が加入していることが報告されている。

	男	女	計
青少年団体加入状況調査(総理府 5.97)	—	—	11.9%
埼玉県・青少年の意識と行動	—	—	13.9%
新潟県・青少年の生活実態	9.6%	8.0%	9.1%
静岡県・高校生の生活意識と行動	18.3%	14.1%	16.3%

以上が、高校生の地域活動としての学校外における学習機会と自主的な団体・グループ活動等の状況であるが、これらには次のような問題点を指摘することができるとする。

- ・活動の主体は、一部の生徒や教師に限られている場合が多い。また活動に地域差が大きい。
- ・青年など年長者との交流については、飲酒喫煙など生活習慣の問題などから一般に、親教師とともに消極的である。
- ・地域活動の領域が施設訪問や神社等の清掃など、せまに分野に限定されがちである。
- ・受験勉強との両立に悩む生徒が多い。
- ・活動に対して教師以外の指導者が不足している。

2 高校生の人間形成にはたす地域活動の役割

全体的にみれば一部の高校生の活動にすぎないが、地域活動に参加する生徒については成果として、次のような評価がみられる。

すなわち、少年団体のリーダーの役割を経験することによって、高校生としての自覚や自信が生まれ積極的な態度が培われる。そして活動の場が、公民館や青少年施設などの地域の社会教育施設が多いところから、これらの施設利用が活発になるとともに、地域に対する関心が高まりつつある。また、一般に野外活動やレクリエーションの技術の向上がみられる。そして、奉仕活動を経験することにより社会福祉への関心が高まり、ボランティアを志向する生徒が多くなっている。さらに、高校の勉強を軽視した生徒たちも再度真剣に取り組むようになったこと、協力 仲間づくりについて理解がすすむこと、なかには、こうした社会教育活動が生徒の進路に影響を与えていることなどが報告されている。

地域活動に参加する生徒自身は、どのように自己評価しているのだろうか。各種の報告書や文集等によると、いくつかの共通する感想がみられる。

- ・地域の子ども会のジュニア・リーダーとなり、子どもたちに頼られてうれしく、同時に大きな責任を感じている。
- ・老人施設を訪問して、老人のさびしさがわかり思わず涙がこぼれた。もっと老人をたいせつにしてあげたい。
- ・学校外で異年齢の友人が数多くできたことと、尊敬できる先輩に出会えたことがうれしい。
- ・青年グループ、子ども会、婦人会など他世代との交流によって、高校生に対する批判や期待が大きいことを知り、反省させられた。
- ・高校生以外に多くの人々が、熱心に勉強をしていることを知った。成績はつけられなくとも、本当に価値のある勉強だと思う。

・同じ年代の人たちが、養護施設等のボランティア活動をしていることに感銘を受けた。自分の今の生活を深く反省させられた。

さて、こうしてみると、高校生の地域活動には、学校の成績とはかわりなく地域の次代の担い手としての自信、自覚、責任感を育てる側面があるようである。さらに参加する生徒たちには積極的な自己啓発の姿勢や他者に対する心情が培われてくるようである。

高校期においては、地域活動(社会教育活動)は、現実社会における各種の集団活動等を通じて实际的・社会的経験をもつということである。そして、このことは社会性の発達を図る、すなわち、自己の役割と責任を自覚させるために必要かつ重要な教育活動であるといえよう。

3 高校生の地域活動を促進するために

高校生を地域の活動に参加させることについては、地域の教育力に対する不信や過去、学校教育が担ってきた、校外生活指導などの役割への踏襲から、今なお積極的であるとはいえない。

しかしながら、今日、高校生の社会教育の意義を考慮するとき、学校外における活動を促進することがきわめて重要であるといわざるを得ない。そこで、今後 高校生の地域活動を促進するために具体的な方法として、学校側は次の点に留意する必要がある。ひとつは生徒会活動、ホームルーム活動及び教科活動など校内諸活動の中で社会参加意識の高揚を図るとともに、地域活動を促進する。もうひとつは、学校外の活動の意義・必要性について、教師が共通に理解し、学校内の指導体制の改善を図るとともに、家庭・地域社会などの校外組織との協力体制づくりに努めることである。また行政としては、施設を整備し、従来以上に、高校生の社会教育活動の機会を拡充するとともに成人指導者の養成を図ることが義務となるであろう。